



感染症 (COVID-19) 診療の手引き・第9.0版に基づいた重症度分類で、軽症 (SpO2 ≥ 96%、呼吸器症状なし or 咳のみで呼吸困難なし) 85 1例 (98.5%)、中等症 I (93% < SpO2 < 96%、呼吸困難、肺炎所見) 7人 (0.8%)、中等症 II (SpO2 ≤ 93%、酸素投与が必要) 6人 (0.7%) で、人工呼吸器管理を要する重症例は認めませんでした。COVID-19の併存症として肺炎、免疫性血小板減少性紫斑病 (immune thrombocytopenia、以下ITP)、川崎病、虫垂炎などを認めました。

今年の5月よりCOVID-19が第5類感染症に移行されるにあたり、私たちの生活は様々な規則や制限が徐々に緩和されるようになりました。それに伴い小児における様々な感染症、例えばRSウイルス感染症、ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎等の流行が一気に押し寄せ、全国の小

児病棟では病床のひっ迫が相次いでいる状況です。それに加え7月に入り当院ではCOVID-19の入院例も再び増加しています。またウイルス感染症のみならず、肺炎や気管支炎で入院する患児の鼻腔培養からは小児呼吸器感染症の主要細菌であるヘモフィルスインフルエンザ菌、肺炎球菌、モラクセラなどの細菌も多く検出されています。入院した患児の付き添いをされる母が同様の症状 (発熱、咳嗽) を来す例も目の当たりにしています。こうしたCOVID-19以外の感染症に対してもマスク、手指消毒、手洗い等の感染対策により感染を回避出来る可能性があります。皆様にはこれまでに培った健康対策や予防法を継続し、楽しく元気な夏休みを過ごして頂きたいと願っております。

(小児感染科医長 菅田 健)

2病棟 の子どもたちの生活のひとコマ

毎日暑い日が続いていますね。年々気温も高くなり、冷たいものが食べたくくなりますね…。こんな時に食べたくなるもののひとつが「かき氷」ではないでしょうか。

そこで今回2病棟では、「ギャラリー夏の製作会」と題して子どもたちみんなで「かき氷」の製作をしました。綿を使って氷を表現し、それぞれ



が好きな色を重ねました。「かき氷食べたい～」と口にしながらかき氷を作っている子もいて、個性あふれる作品が出来上がりました。作品は売店近くの廊下に展示してあります。素敵な作品に足を止めてみてください。暑さを忘れるくらい涼しい気持ちになりますよ!!

(児童指導員 平田 真理子)



1病棟のせいかつ

7月の行事として七夕の短冊制作や飾り付けを行いました。小児だけでなく成人の患者さんにも参加してもらいました。書いた短冊や、制作した飾りつけを自分で飾り、笑顔がたくさん見られ、楽しく七夕行事をすることができました。(1病棟行事係)

